



## 新使徒教会 国際本部 ■ 「震撼されないよう」

2007年5月28日、  
ハンブルク

主使徒ウィルヘルム・レーバー氏、新使徒教会の国際主管者、が 「震撼されないように」、という特別の五旬祭のメッセージで、全世界の同信の教会員に呼びかけられました。神と主イエスに対する篤き信仰が、窮地の中にあっても役立つでしょう。



図：「NAK北方」提供

現職の主使徒が五旬祭に当たって、会衆にご挨拶のことばを下さるのは、新使徒教会では例年の慣例になっております。今年はこの聖書から引用されている言葉が、ヨハネによる福音書に記されています。「心を騒がせるな。神を信じなさい。そして私をも信じなさい。」（ヨハネによる福音書14章1節）。教会主管者として、二回目の五旬祭を迎えた主使徒レーバー氏は、その言葉から、人生の難しい境遇の中にも、確固として留まるように、という所感を述べられました。「驚く事がありますが、魂の深層まで<sup>しんかん</sup>震撼させてはなりません。

主使徒は五旬祭説教で、私たちが神の御子イエス・キリストの御品性に成長することが重要であると強調されました。キリストは全ての人に配慮してくださった真の祈りの方であって、その御生涯の特徴は仕えることでした。信者は今日、この福音の特徴を自分の生活に取り入れるようにと、主使徒レーバー氏が呼びかけられました。